

第4学年1組 総合的な学習の時間 学習構想案

日 時 令和3年11月19日（金）第2校時

場 所 4年1組教室

指導者 教諭 丁畑 拓弥

I 単元構想

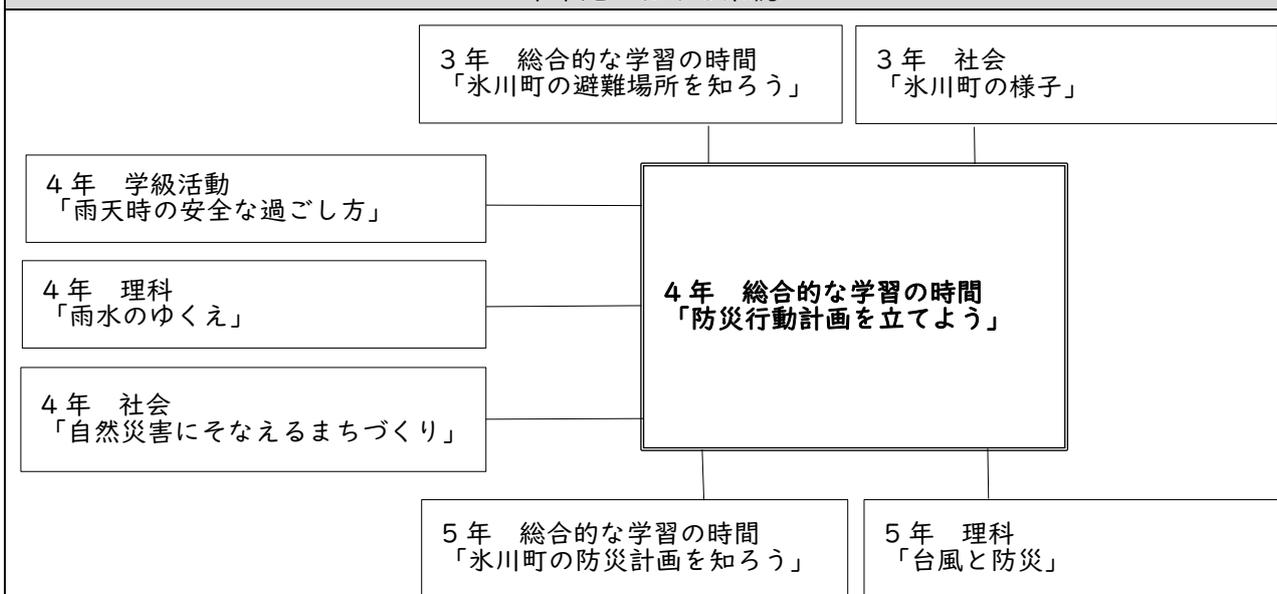
単元名	防災行動計画を立てよう		
単元の目標	自分の防災行動計画を立てることを通して、 (1)自然災害にそなえるために自分ができる取組を知り、 (2)自分や家族の命を守るために家庭環境や生活環境に応じたよりよい避難行動について考えるとともに (3)学んだことをこれからの自分や家族の防災行動に生かそうとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①防災行動計画について、その特徴やよさがあることを理解している。 ②自分や家族の命を守るためには、その家庭環境や生活環境に応じてそなえなければならないことを理解している。 ③防災行動計画を立てるために調べたり、話を聞いたりして収集した情報の関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。	①防災行動計画について、課題解決に向けて家庭環境や生活環境に応じたよりよい避難行動を考えている。 ②防災行動計画に関する必要な情報を、取捨選択したり、複数の情報を比較したり、関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ③伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①防災行動計画を立てる活動を通して、得た知識や自分と違う考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ②課題解決の状況を振り返り、自然災害から自分や家族の命を守るために自分の家庭環境や生活環境に応じたよりよい避難行動を考える等、課題の解決に向けてあきらめず取り組もうとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
自分や家族の命を守るためのよりよい避難行動について主体的に選択・判断し、協働的に行動しようとすることができる児童			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
自分や家族の命を守るためにはどのような防災行動計画を立てるとよいか。		防災行動計画について多様な角度から捉え、自分や家族の命を守るために、よりよい避難行動について考え、自己の生き方を問い続けること。	
指導計画と評価計画（10時間取扱い 本時7/10）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一次	3	○防災行動計画とは、どのようなものなのか、どのようなよさがあるのか知る。 ○防災行動計画を立てるために、どのような避難行動が必要かを整理する。	★【知・技①】（ワークシート） ○防災行動計画について、その特徴やよさがあることを理解している。 ★【思・判・表②】（ワークシート・発言・行動観察） ○防災行動計画に関する必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。
二次	3	○大雨接近時における防災行動計画を立てる。（警戒レベル1）	★【態度①】（発言・行動観察） ○防災行動計画を立てる活動を通して、得た知識や自分と違う考えを生かしながら協働して課題解決に取り組もうとしている。

		<p>○大雨・洪水注意報，大雨・洪水警報における防災行動計画を立てる。（警戒レベル2・3）</p> <p>○家族と話し合ったことをもとに防災行動計画を整理する。</p> <p>○避難指示発令後の防災行動計画を立てる。（警戒レベル4・5）【本時】</p>	<p>★【知・技②】（ワークシート・発言）</p> <p>○自分や家族の命を守るためには，その家庭環境や生活環境に応じてそなえなければならないことを理解している。</p> <p>★【思・判・表①】（ワークシート・発言・行動観察）</p> <p>○防災行動計画について，解決に向けて家庭環境や生活環境に応じたよりよい避難行動を考えている。</p> <p>★【態度②】（発言・行動観察）</p> <p>○課題解決の状況を振り返り，自然災害から自分や家族の命を守るために自分の家庭環境や生活環境に応じたよりよい避難行動を考える等，課題の解決に向けてあきらめず取り組もうとしている。</p> <p>★【思・判・表②】（ワークシート・発言・行動観察）</p> <p>○防災行動計画に関する必要な情報を，取捨選択したり，複数の情報を比較したり，関係付けたりしながら解決に向けて考えている。</p>
三次	4	<p>○発表に向けた準備をする。</p> <p>○本単元を振り返り，班ごとに自分の防災行動計画を発表する。</p>	<p>★【知・技③】（ワークシート）</p> <p>○防災行動計画を立てるために調べたり，話を聞いたりして収集した情報の関係について，図や文章でまとめる方法が分かっている。</p> <p>★【思・判・表③】（発言・行動観察）</p> <p>○伝える相手や目的に応じて，自分の考えをまとめ，適切な方法で表現している。</p>

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容，指導事項等)	
<p>小学校学習指導要領第1の目標を受け設定された本校の総合的学習の時間の目標「1 自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。」「2 学び方やものの考え方を身につけ，問題の解決や探求活動に主体的，創造的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにする。」をもとに目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を設定し，単元を構成している。</p>	
教材・題材の価値	
<p>本教材で扱う水害は，児童にとって最も身近な自然災害の1つである。令和2年7月豪雨や今年8月の豪雨により熊本県が被害に遭ったことは周知の事実である。児童が住む氷川町に直接的に大きな被害はなかったが，氷川の水が溢れそうになったり，家の水道が断水したり，テレビや新聞等で災害状況等を目にしたりしている。</p> <p>本教材は，自分や家族の命を守るための防災行動計画を立てる活動を通して，自分の家庭環境や生活環境に応じた防災行動計画を立てることで，自己の生き方について考えることに適している。いつ，どこで自然災害が起きるか分からない予測困難な社会において，命を守るためにはそなえが必要となる。防災行動計画は，自然災害が起きることをあらかじめ想定し，状況に合わせて自分たちの行動を計画しておくものである。災害が起きて考えるのではなく，災害前に考えておくことで進行型災害と突発型災害のどちらが起きた場合においても，少しでも命を守る行動につなげることができる。</p>	

本単元における系統



児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（人）

	調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
1	防災行動計画について知っていますか。	3	6	16	10
2	自ら課題を見つけ、設定することはできますか。	6	11	16	2
3	本、インターネット、インタビュー等で情報を集めることはできますか。	6	11	12	6
4	集めた情報を整理・分析したりして考えを出すことはできますか。	5	11	15	4
5	自分の考えをまとめ、表現することはできますか。	4	11	18	2
6	学んだことを現在や将来の自分の生き方につなげて考えていますか。	3	18	12	2

■本単元の学習に関する意識の状況（人）

	調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
1	地震や水害などの自然災害について、関心がありますか。	9	11	11	4
2	自然災害は自分にとって身近な問題だと思えますか。	6	16	9	4
3	自然災害が起きたときの避難の仕方等について家族と話し合っていますか。	4	9	6	16
	・公民館 ・祖父母宅	・宮原体育館 ・氷川町役場	・宮原福祉センター ・氷川中学校	・高いところ ・広いところ	・土地の高いところ

	調査内容	はい	いいえ
4	自分の家では非常食のような自然災害にそなえるものを準備していますか。	25	10
	・非常食（お菓子、水、パン、カップラーメン、2Lの水、ご飯、ようかん、一週間分の食料、カロリーメイト） ・包帯 ・紙皿		
	・ラジオ ・ラップ		
	・テント ・薬		
	・寝袋 ・リュック		
5	自然災害が起きたとき、自分の家がどれくらい危険な場所にあるのか、安全な場所にあるのか知っていますか。	17	18
6	自然災害が起きたときに、避難する場所を知っていますか。	11	24
	・氷川町公民館 ・団地の3階	・高いところ ・山みたいなどころ	・自分の家 ・祖父母宅
7	これまでに避難所等に行ったことはありますか。	6	29
	・5歳の時に体育館に行った。 ・5歳の時に氷川町役場に行った。	・5歳の時に祖父母宅に行った。 ・熊本地震の時に福祉センターに行った。	・8月の豪雨の時に祖父母宅に行った。

■考察【本学級は35人（うち特別支援学級在籍児童2人）】

学んだことを現在や将来の自分の生き方につなげて考えている児童が大半を占めている。学んだことを生活とつなげて考えることで、より意義のある学びになっていると言えるだろう。しかし、学んできたことから自分の考えをまとめ、表現することについては課題がある。学びをもとに「自分がどう考え、行動するのか」思考し、判断することができなければ、本当に自分の生き方につながって

るとは言い難い。

また、各家庭で自然災害を見据えた非常食や生活用品などの非常用品の準備をしているところがとても多い。自然災害を身近な問題であると認識している児童は少ないが、自然災害に対して関心のあ
る家庭が多い。しかし、親子で避難の仕方など具体的に話をしている家庭は少ない。また、自分の家の危険度、安全度についても曖昧な児童が多い。「もの」のそなえはあるが、命を守るための自分たちの「行動」のそなえは十分ではない。

本単元では、大雨を想定した防災行動計画を立てる活動を通して、災害時における自らの行動を事前に考え、判断し、「行動」のそなえを十分にさせたい。

3 研究主題について

主体的に判断し、協働的に行動する児童の育成

～地域とともにある防災教育の実践を通して～

【仮説1】災害に関する課題に対し、多面的・多角的な見方・考え方を働かせて協働的に解決する活動に取り組むことで、児童が主体的に判断・行動できる資質・能力を高めることができるであろう。

※授業研究の視点

- 視点1 多面的・多角的な見方・考え方を働かせる課題の設定
- 視点2 互いの考えの違いを認識させる手立て
- 視点3 対話によって得られた学びと自らの変容を記した振り返り

4 指導に当たったの留意点

○視点1 多面的・多角的な見方・考え方を働かせる課題の設定

既習事項から自分や家族の命を守るために、災害時だけでなく日常生活時の防災行動にも着目させることで、多様な防災行動計画を考えることができるようにする。また、児童の住む場所や家族構成、保護者の仕事の都合などによって早急な避難が必要な場合や様々な理由により避難しないと選択した方がより安全と判断することもできることも捉えさせる。ひ

さらに、児童が自分の防災行動計画について家族と考えることを通して、より確かな根拠に基づいた考えをもつことができるようにする。

○視点2 互いの考えの違いを認識させる手立て

一人で考える時間の確保と、自分の考えをペアや全体で意見の共有をする時間を設け、「ひ・か・わ」型学習を進める。また、意見の共有の際には友達の考えと自分の考えを比較させることで違いを明確にする。ICTを効果的に活用して、それぞれの防災行動計画や考えを可視化する。か

○視点3 対話によって得られた学びと自らの変容を記した振り返り

自分の防災行動計画について考え、友達と対話することによって得た新たな視点を取り入れて振り返らせるようにする。わ

単元を通して、学習過程を記録として残し、これまでの学習を振り返ることができるようにする。

※ 人権が尊重される授業づくりの視点

「共感的人間関係を育成する支援を工夫する。」

自分と他者の考えには違いが生じることを理解し、その違いを互いに尊重する。

【板書計画】

<p>○PowerPoint の利用（資料の提示）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 前時までのふりかえり・ 課題の確認 <p>○SKY メニューの利用（教師による投影）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 児童の発表ノートを可視化	<p>11/19 防災行動計画を立てよう</p> <p>めあて</p> <p>警戒レベル4・5の防災行動計画をどのように立てるとよいか考えよう。</p>
	<p>避難する人</p> <p>レベル2 祖父母と住んでいるから ・家は安全な場所にあるから</p> <p>レベル3 赤ちゃんがいるから ・家は頑丈に造られているから</p> <p>レベル4 浸水の心配があるから</p> <p>まとめ</p> <p>警戒レベル4・5でも、自分に必要な情報をもとに家庭環境などに応じた防災行動計画を立てるとよい。</p>

【ICT活用計画】

<p>教師による教材提示の計画, ICT を活用した発表</p>
<p>導入時：PowerPoint の利用（資料の提示）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 前時までのふりかえり・ 課題の確認
<p>展開時：SKY メニューの利用（教師による投影・児童による操作活動）</p>